

第1学年 組 国語科学習指導案

授業者

1. 単元名 声に出して読もう 「くじらぐも」 (全10時間)

2. 学習にあたって

(1) こんな子どもたちだから

本学年の子どもたちは、明るく素直な子が多く、何事にも意欲的に取り組むことができる。入学してから今まで、学びあいの基本となる「聴く」「話す」という姿勢ができるように意識して指導に当たってきた。友だちの話をしっかりと「聴く」こと、相手に伝わるような声の大きさに「話す」ことなど、できるようになってきている。二学期に入ってからは、友だちの意見につなげて発表したり、違うところを発表したりするなど、相手の意見を受け止めた上で自分の思いを相手に伝えることができるようになってきている。

国語科の学習においては音読や、文字を書く学習に意欲的に取り組み、文章での表現が少しずつできてきている。読むことについては、子どもたちは意欲的に声を出し、音読に励んでいる。しかし、まだまだ「文章」に触れて間もない子どもがいるので、ひとつひとつの言葉の意味を読み取ることには個人差がある。本単元ではペアでの学びあいを通して、言葉の読み方など、読むことの基本的な力を身につけさせたい。

(2) こんな教材を

本教材は、体育の授業で体操をしていた1年 組の子どもたちの前に、くじらぐもがあらわれ、一緒に体操をしたりお話をしたり、海や村や町へと大空の旅をしたりする物語である。同じ一年生が登場人物であり、舞台が学校から始まるこの物語は、子どもたちが楽しんで読むことができる教材である。現実と幻想が入り交じるお話の世界で、子どもたちは登場人物と一体となって、読むことの楽しさを味わうことができると考える。

文章は、五つの場面で構成されており、題名にもなっている「くじらぐも」が、子どもたちに対して様々な姿を見せてくれる。どの場面も生き生きとした挿絵が描かれており、絵と文を対比しながら場面の大体を読み取ることができる。また、くじらぐもの動きや会話の対比のおもしろさは、児童に声に出して読む楽しさを味わわせてくれると考える。

(3) こんな方法で

本教材の指導にあたっては、まず題名と冒頭を声に出して読むことを通して、「くじらぐも」というお話に出会わせたい。その中で題名の「くじらぐも」から「くじらぐもはなにをしにきたのかな?」「これからなにをするのかな?」等の疑問を持たせ、くじらぐもに着目した読みのめあてを生み出す。そして、全文を読んで、全体であらすじ(読みのめあての答え)を書きまとめ、くじらぐものあらすじをつかみ、くじらぐもの行動を中心に場面ごとに詳しく読んでいく計画をたてる。このとき、子どもたちが各場面で不思議に思ったこと「はてな」を出させることで、くわしく読んでいくときに目的意識を持って学習に臨むことができるようにしたい。

次に、文章を場面ごとに詳しく読んでいく段階では、場面ごとにくじらぐもと子どもやせんせいとの会話に注目させて、その叙述からくじらがしたことや、くじらぐもと子どもが仲良くなっていく様子を、想像を広げながら読み取ることができるようにする。また、「いろいろなくちばし」や「大きなかぶ」で習得した指示語を読んだり、言葉はずしたり、挿し絵を読む読み方を活用しながら、繰り返しのはたらきや、「も」「が」といった助詞のはたらきを読んだりする読み方、会話文を読む読み方を習得することができるようにしたい。

3. 単元のねらい

- くじらのしたことや、子どもたちと仲良くなっていく様子を、想像を広げながら読み取ることができるようにする。
- 友だちとの交流を通して、自分の考えを確かにしてみんなに伝えることができるようにする。

4. 学習計画 (全10時間)

配時	主な学習活動と内容	指導・支援 (※学び合いの姿)
1 / 10	読みとおしのめあてをつくる。 (1) 単元名から、声に出して読むとどのようなことかがあるのかを考える。 (2) 題名とぼう頭を読んでわかること、思ったことを話し合う。 (3) これからどんなことを読んでいきたいかを考え、読みのおしめあてを作る。 よみとおしのめあて くじらぐもは、なにをしにあらわれたのかな。	○「くじらぐも」という言葉から、イメージをふくらませるようにする。 ○いつ、どこで、だれがといった冒頭で読むべき内容を想起させる。 本時の学び 人物、とき、場所をあらわす言葉を見つけたり、題名をもとにくじらぐもについて想像をふくらませたりする。
2 / 10	全文を読み、音読の練習をする。 ・範読、一文読み、号車読み	○口のあけ方、姿勢、句読点や「 」に気をつけて読むことができるように指導する。
3 / 10	全文を読み通してよみのめあての答えをまとめる。 (1) 挿し絵をもとにして、くじらがしたことをつかみくじらがしたことを読み取る。 ①たいそうまねくじら④げんきいっぱいみんなのをせくじら ②さそいくじら ⑤さようならくじら ③おうえんくじら (2) くじらがしたことと、何をしにあらわれたのかを考え、よみのめあての答えを書きまとめる。	○挿し絵をもとに、くじらがしたことをおおまかにつかむことができるようにする。 ○くじらがしたことを、よみのめあてとつなげて、くじらが何をしにきたのか考えられるようにする。
4 / 10	学習計画をたてる。 (1) わからないことや、読んでいきたいくじらの様子や気持ちを発表しあい、学習計画をたてる。	○読んでもわからない疑問は、問い返しをすることで、教材文の中には書いていないことをおさえる。
5 / 10	1の場面を読んで、くじらがしたことや子どもたちと仲良くなっていく様子を読み取る。 (1) 本時のめあてを確かめる。 (2) 本時場面の音読をする。 (3) くじらぐもが、なぜ子どもたちと一緒に体操をしたのかを読み確かめる。 (4) 本時の学習を振り返り、まとめる。	○学習計画をもとに、めあてへつなぐ。 ○くじらの挿し絵と子どもたちの挿し絵を、叙述とつないで、くじらぐもの様子を読み取ることができるようにする。 本時の学び 助詞(も)の働きを読みとり、くじらぐもの様子について想像を広げながら読み取ることができる。 ※友だちの意見や考えから、アイデアやヒントを見つけることができる。
6 / 10 (本時)	2の場面を読んで、くじらがしたことや子どもたちと仲良くなっていく様子を読み取る。 (1) 本時のめあてを確かめる。 (2) 本時場面の音読をする。 (3) くじらぐもが、なぜ子どもたちを空へ誘ったのかを読み確かめる。 (4) 本時の学習を振り返り、まとめる。	○学習計画をもとにめあてへつなぐ。 ○くじらの挿し絵と子どもたちの挿し絵を、叙述とつないで、くじらぐもの様子を読み取ることができるようにする。 本時の学び くじらと子どもたちの会話文をもとに、くじらぐもの様子について想像を広げながら読み取ることができる。 ※友だちの意見や考えから、アイデアやヒントを見つけることができる。

<p>7 / 10</p>	<p>3の場面を読んで、くじらがしたことや子どもたちと仲良くなっていく様子を読み取る。</p> <p>(1) 本時のめあてを確かめる。 (2) 本時場面の音読をする。 (3) くじらぐもが、子どもたちをなぜ一生懸命応援したのかを読み確かめる。 (4) 本時の学習を振り返り、まとめる。</p>	<p>○学習計画をもとに、めあてへつなぐ。 ○挿し絵を見たり動作化をしたりしながら、くじらぐもの様子を読み取ることができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>本時の学び 「もっとたかく～」という繰り返しの会話文をもとに、くじらぐもの様子について想像を広げながら読み取ることができる。</p> </div> <p>※友だちの意見や考えから、アイデアやヒントを見つけることができる。</p>
<p>8 / 10</p>	<p>4の場面を読んで、くじらがしたことや子どもたちと仲良くなっていく様子を読み取る。</p> <p>(1) 本時のめあてを確かめる。 (2) 本時場面の音読をする。 (3) 子どもたちと元気いっぱい空をすすむくじらぐもの様子や気持ちを読み確かめる。 (4) 本時の学習を振り返り、まとめる</p>	<p>○学習計画をもとに、めあてへつなぐ。 ○挿し絵と言葉をつないで、くじらぐもの様子や気持ちを読み取ることができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>本時の学び 言葉はずしたり、「あおいあおい」「どこまでもどこまでも」といった繰り返しの表現に着目したりして、くじらぐもの様子について想像を広げながら読み取ることができる。</p> </div> <p>※友だちの意見や考えから、アイデアやヒントを見つけることができる。</p>
<p>9 / 10</p>	<p>5の場面を読んで、くじらがしたことや子どもたちと仲良くなっていく様子を読み取る。</p> <p>(1) 本時のめあてを確かめる。 (2) 本時場面の音読をする。 (3) 子どもたちと別れて、帰っていくくじらの様子や気持ちを読み確かめる。 (4) 本時の学習を振り返り、まとめる</p>	<p>○学習計画をもとに、めあてへつなぐ。 ○挿し絵と言葉をつないで、くじらぐもの様子や気持ちを読み取ることができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>本時の学び 前の場面とつないだり、言葉はずしたりして、くじらぐもの様子について想像を広げながら読み取ることができる。</p> </div> <p>※友だちの意見や考えから、アイデアやヒントを見つけることができる。</p>
<p>10 / 10</p>	<p>「くじらぐも」のお話を振り返って、よみとおしのめあてである『くじらぐもは、なにをしにあらわれたのかな』というよみとおしのめあての答えをまとめる。</p> <p>(1) 学習の足跡の掲示を使って振り返り、よみとおしのめあての答えをまとめる。 ・子どもたちと仲良くなりたくてきた。 ・一緒に遊びたくてきた。 (2) 本学習で使った読み方をまとめる。 ・言葉はずして読む ・くりかえしを読む など</p>	<p>○読みとおしのめあてとつないで考えることができるようにする。 ○自分たちにも友だちがいること、その喜びを感じられるようにする。 ○掲示物を使って、読み方を確認し、これからの読みの学習に生かすことができるようにする。</p>

6, 本時のめあて

- 「ここへおいでよう。」ときそうくじらの様子を想像し、挿絵を読んだり、指示語を読む読み方を活用したり、助詞に注目したりしながら、くじらが子どもたちと仲良くなりたくて一生懸命誘っていることを想像をふくらませながら読み取ることができる。
- くじらぐもの様子について、交流を通して想像を深めることができる。

7, 本時活動の考え方

本時の流れ

前時に、子どもたちと一緒に体操をしたときのくじらぐもの様子や気持ちを読み取っている。本時は、くじらぐものが「ここへおいでよう。」と空へ子どもたちを誘う場面のくじらの様子や気持ちを詳しく読んでいく場面である。

本時指導にあたっては学習計画の中から子どもたちの「はてな」を確認し、本時のめあてにつなぎ、中心となる文を視写し、叙述をもとにくじらぐものが子どもたちと仲良くなっていく様子や気持ちを話し合っていく。まず「おうい。」という子どもたちとくじらぐもの言葉のやりとりに着目させ、くじらぐものが子どもたちの呼びかけに答えていることを読み取ることができるようにする。その際、前時でくじらぐものが子どもたちのまねをしていたことから、本時もまねだと思える子がいると思われる。本時ではまねではないことを捉えることができるように「よびました→こたえました」という表現に着目させたい。また、くじらと子どもの「ここへおいでよう。」という言葉の「ここ」という指示語に着目させ、言葉は同じであるが、くじらがさす「ここ」は空、子どもたちがさす「ここ」は運動場であることを捉えさせたい。同時に空と運動場の距離の遠さを確認し、どれほど遠いところからくじらは誘っていたのか、想像をふくらませることができるようにする。また、どのようにくじらが誘ったのかの動作化を行い、一生懸命に子どもたちを空へ誘うくじらぐもの様子に気付かせたい。その上で、子どもたちのはてなである「どうしてみんなをさそったのかな」について考えていく。空に来てほしい、子どもたちと仲良くなりたい、そういったくじらの気持ちについて想像をふくらませていく。その際、ペアでの話し合いを取り入れることで、交流を通して自分の考えをもつことができるようにしたい。

本時のまとめでは、学習プリントや板書をみながら前時よりも、くじらぐものが子どもたちと仲良くなったことについてハートの形を使って考える。前時よりもなかよくなったことを子どもたちが視覚的に捉えることができるようにする。また、本時でくわしくなったことを自分の言葉で書きまとめることができるように、板書を振り返りながら、「おうちの人へ」伝えるためにまとめを書いていく。最後に、次の時間には「げんきいっぱい みんなをのせくじら」の学習することを確認し、次の時間はもっと仲良くなれるのか読み確かめていくことを伝え、次時への意欲につなげる。

学びあいの姿

自分の考えを友だちに伝えたり、友だちの考えを聞いたりする中で、自分の考えに自信を持ったり深めたりしている。

8, 準備

(児童) 学習プリント

(教師) よみかたカード、さしえ、くじらぐものお面、短冊

9, 本時の展開

主な学習活動と内容	指導・支援（※学び合いの姿）
<p>☆かがやきを声に出して読む。</p> <p>1, 前時を想起し、本時のめあてを確認する。</p> <p>めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>二のぼめんをよんで、くじらぐもがみんなをさそうおはなしを、くわしくよもう。</p> </div> <p>2, 本時場面を音読する。</p> <p>3, おさそいくじらが、みんなを誘う様子を読み確かめる。</p> <p>(1) くじらぐもが「したこと」がわかる文を学習プリントに視写する。</p> <p>(2) 「おい。」という言葉のやりとりについて考える。</p> <p>(3) 「ここへ おいでよう。」という言葉のやりとりについて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①子どもたちとくじらぐもがさす「ここ」の違いについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちのここは「運動場」 ・くじらのここは「空」 </div> <p>②くじらぐもがどんなふう子どもたちを空へ誘ったのか、動作化やくじらの言ったことを想像することを通して考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんばっておいでよ。 	<p>○口をしっかりとあけて読み、学習への心構えができるようにする。</p> <p>○教室掲示を見ながら、前時の学習を思いださせる。</p> <p>○学習計画のときに出した子どもたちの「はてな」を、めあてへつなげる。</p> <p>○句読点に注意して、はきはきすらすらと音読できるように指導する。</p> <p>○視写をするのが苦手な子どもには、机間指導で個別に支援する。</p> <p>○くじらぐもは、子どもたちに呼ばれたから返事をしたことを読み取ることができるように、「答えました。」という表現に着目させる。</p> <p>○動作化をいれることで、くじらと子どもたちとのやりとりが、まねではないことを捉えられるようにする。</p> <p>※友だちの意見や考えから、アイデアやヒントを見つけることができる。</p> <p>○くじらと子どもたちのいう「ここ」という場所が異なることを考えられるように、挿絵に着目させたり前時のことを想起したりする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>本時の学び</p> <p>指示語（ここ）がさすものを読みとる。</p> </div> <p>○空と運動場が離れていることを捉え、くじらぐもは子どもたちを空へ誘っていることを読み取ることができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>本時の学び</p> <p>挿し絵を見て、くじらと子どもがいる場所がはなれていることを読み取る。</p> </div> <p>○友だちの動作化を見て、くじらぐもの一生懸命な様子を捉えられるようにする。</p> <p>※友だちの意見や考えから、アイデアやヒントを</p>

- ・空の上は、すごく楽しいからおいでよ。
(おいでおいでをする)
(口に手をあてて大声で呼ぶ)

③なぜくじらは一生懸命に子どもたちを空へ誘ったのか考える。

- ・みんなと遊びたかった。
- ・なかよくなりたかった。
- ・空で遊びたかった。
- ・空の上は楽しいから。

④「よしきた。くものくじらにとびのろう。」という子どもたちの言葉から、くじらに一生懸命誘われた子どもたちの様子や気持ちを考える。

- ・まかせて！
- ・やったあ！
- ・いくぞ！

4, 本時の学習のまとめをする。

①ハートの形を使って、一年二組の子どもたちとくじらぐもは、前の時間よりもなかよくなったことを確かめる。

②「おうちの人へ」を書く。

くじらぐもはね、みんなを空へいっしょうけんめいさそったんだよ。…

見つけることができる。

○動作化で読み取ったくじらぐもが一生懸命誘っている様子をつなげて考えられるようにする。

○手があまり挙がらないときには、お隣の人とお話タイムをとる。

※分からないときは、隣やグループの人と一緒に考えることができる。

○教科書の叙述にもどって、子どもたちがくじらぐもとなかよくなったことを確かめる。

○叙述に戻って考えることで、子どもたちに、くじらぐもの気持ちが伝わったことを読みとれるようにする。

○くじらと子どもたちがお話をしていることや、「よしきた。…」という子どもたちの言葉から、前時よりも仲良くなったことを考えられるようにする。

○なかなか書き始めることができない子のために、詳しくなったことの大体をまとめて板書する。

○自分が、今日の時間で読み取ったところについて、自分の言葉でまとめられるようにする。